



CORPORATE
PROFILE

農事組合法人 香花園

本社：香川県高松市塩江町安原下558
tel.087-897-0478
資本金：2,400万円
従業員数：25名(平成18年5月現在)

昭和49年、塩江町に設立されたカーネーション専門農場。当時としては珍しい機械化された大型温室で、カーネーションの安定生産と品質改良、新しい栽培技術の確立を目指して発足した。養液栽培、湿式輸送(バケツ流通)など先端技術を導入し、日本のカーネーション栽培をリードする農場として注目される。現在は3農家の共同経営で、約5,000坪の敷地で約1,000種類を試作、切り花27種を出荷している。

佳亮 3年の時に1年間休学して、オ

うですね。 Q 佳亮さんは留学経験があまりだそ

うですね。 佳亮 海外でいろんな人に会えたのは貴重な経験。日本語は通じないし、英語もちよつと...というところで暮らしていると、さまざまな考え方の人がいるというのがよく分かりました。

佳亮 農学部へ行くと勧めたわけではないんですけど、花を切るだけでも「何のために切ってるのか」とか、何か考えながらやるようにしています。

光裕 農学部へ行くと勧めたわけではないんですけど、花を切るだけでも「何のために切ってるのか」とか、何か考えながらやるようにしています。

佳亮 香花園ができたのは僕が生まれる前で、常にカーネーションが身近にある生活でしたから、わりと自然に進路は決まりました。

Q おじいさま、お父さまも香大のご出身。佳亮さんの進路に影響はありましたか？

佳亮 ランダ人が運営するポルトガルの花卉農場と、ブラジルの農場、スペインの種苗会社に研修に行きました。向こうは農場の規模がデカイです。オランダは賃金が高いので、人件費を抑えるために機械化できることはどんどん機械化している点などが、参考になりました。



大きい花を作るため、つぼみを間引きしています。

光裕 留学してから、ものの考え方ができつつあると思いますね。

佳亮 海外でいろんな人に会えたのは貴重な経験。日本語は通じないし、英語もちよつと...というところで暮らしていると、さまざまな考え方の人がいるというのがよく分かりました。

佳亮 基本的に二人の考え方は似ているのかなと思います。本当は対等じゃなく、倒さないといけない相手。早く追いつめてリタイアさせないといけないんですけど(笑)。

光裕 そろそろ世代交代の時期でしょう。私と同じことをやっていても進歩がありませんから。塩江にいらなくてもいいし、海外進出してもいい。



このカーネーションが全国に、そして世界に出荷されます。

佳亮 父がここまで築いたノウハウはもちろん参考にしますが、自分なりのやり

佳亮 将来の夢は、今はまだ具体的な見えませんが、これまでお世話になった人には、良い花を作ることが感謝の表現になると思っています。子どもが百円玉握って買いに行く、お母さんへの1本のカーネーションに込められた思い、それを伝えるお手伝いになるような花を作りたいですね。



母の日の直前には出荷作業のピークを迎えます。

光裕 花卉研究室の仲がいいのは伝統かな。私が学生の時も、よく先輩や後輩の研究を手伝ったりしましたし。他県出身者が多かったのですが、同じ職業の人がほとんどなので今でも交流はあります。先生も近くにいらつしゃるので何かあることを考えたら地元つながりがある農学部は便利と言えます。

佳亮 花卉研究室はチームワークが良かったです。農学部の中で一番仲がいいかも。

Q 農学部のキャンパスライフはいかがでしたか？

佳亮 花卉研究室はチームワークが良かったです。農学部の中で一番仲がいいかも。

真鍋

佳亮

PROFILE

まなべ よしあき
平成17年、香川大学
農学部花卉研究室卒業

真鍋

光裕

PROFILE

まなべ みつひろ
農事組合法人「香花園」代表理事。
日本を代表するカーネーション生産者の一人。
昭和49年、香川大学農学部花卉研究室卒業

親子二代農学部
カーネーション作りで
世界市場に挑む。

高 松市郊外の塩江で、日本有数のカーネーション専門農場「香花園」を営んでおられる真鍋さん親子。おじいさまも学部は違えど香大のご出身です。世界を視野に入れたカーネーション生産のお話を伺いました。

Q 親子で同じ仕事をされているメリットとは？

光裕 私が学生だった30年前より時代の流れが速く、流通範囲も広くなりました。今は市場が日本全国から、さらに世界に広がっています。それだけ国際的に競争も激しくなっているということ

方を見つけたいですね。

Q 農学部のキャンパスライフはいかがでしたか？

佳亮 花卉研究室はチームワークが良かったです。農学部の中で一番仲がいいかも。



もっと気軽に相談できる雰囲気作りをしたい。
まだ十分じゃないなと思っています。

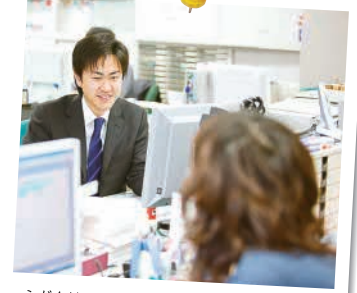
井澤孝昭

PROFILE

いざわ たかあき
香川大学
学生生活支援グループ員



学生さんが声をかけやすいように窓口名も工夫。
スプレッド



ふだんはにこやかな井澤さん。



さまざまな申請書や書類も見やすく整理。



電話で真剣な表情。非常事態発生!?

井

澤さんは、学生生活支援グループという部署に属している大学の職員。学生生活の支援という幅広い仕事の中で、主に学生寮と学生保険を担当しています。と言っても、学生にとって身近な部署の、自分たちと年齢的に近い職員ということもあってか、担当業務以外の相談を受ける機会も多いそうです。学生にとっては、何でも話せる先輩みたいな存在なのかもしれません。

「香川大学の学生が気持ちよく学べる環境を作りたい」というしっかりしたビジョンを持って働いている井澤さんですが、そもそもこの仕事に興味を持った理由は「働くなら、狭い建物の中だけで1日過ごすような職場よりも、大学のように広くて開放感のあるところの方が気持ちいいだろうなと思ったんですよ」というように、ささいなことだったそうです。実際に働いてみて感じたのは、大学というのは思った以上に忙しい職場であるということ。井澤さんは学生寮の担当なので、例えば「寮の冷蔵庫の調子が悪い」という相談に対応するなど、予想できないイレギュラーな仕事に追われていることも、忙しさの理由のひとつ。しかし、そういう細やかな対応により、快適な学生生活が守られているのです。もちろん、井澤さんが感じているのは忙しさだけではありません。「多くの学生さんたちと一緒に過ごす、若いエネルギーに溢れている職場です。それに、キャンパスがあるというのは、やっぱり気持ちいいですよ」。

現在、井澤さんが目指しているのは、学生相談窓口としてのイメージアップ。「もっともっと気軽に相談できる雰囲気作りをしたいんです。これまでもグループとしてそれを目指してやってきてるんですが、まだ十分じゃないなと思っています」。学生にとって学校に相談することは、どうしても抵抗があるものですが、その壁を低くしようという努力は価値があります。少しでも疑問に思ったこと、ちょっとした悩みなど、小さな事をどんどん相談できる窓口になれば、今まで見えていなかった問題点が見えてきて、よりよい大学になると井澤さんは考えているのです。「学生と年齢の近い僕が頑張らなければいけないと思っています。でも、そのためには、何を聞かれてもしっかり答えられるように、僕自身もっとレベルアップしたいです」。必ずしも窓口で相談する必要はありません。キャンパスを歩いているのを見かけた時でも気軽に相談できる頼れる職員がいるというのは、学生にとって何より安心できることではないでしょうか。



まるで香大版「目安箱」!?学長への意見箱。



薬剤部の内部。皆さん、忙しそうです。



薬の入っている棚。見やすく、取り出しやすくなっています。



薬を調剤しているところ。



命に関わることなので念を入れて確認します。

高畑 聖



PROFILE

たかはたけ 聖
医学部附属病院
薬剤部職員

薬剤のスペシャリストとして
患者さんの薬への不安を
取り除きたい。

薬

薬剤師の仕事といえば、イコール飲み薬の調剤をする人というイメージがありますよね?。開口一番、微笑みながら高畑さんはいいます。「実はね、点滴や注射薬の調剤もしているんですよ。ドクターからの処方箋を見て、薬の種類・量・飲み方などが、患者さんの年齢や性別、体重、疾患:あらゆることに適しているかを鑑査しながら、調剤しています。もちろん、薬に関するドクターからの質問に答えるのも大切な役目です」。

高畑さんは、大学卒業以来附属病院に勤務しています。「薬局などの薬剤師さんと違う面といえば、いわゆるチーム医療に参加しているということ」。医師、看護師、ほかのコメディカル、そして薬剤師がそれぞれの立場から「一番適切な対処を考えていくことで、さまざまな症状の患者さんによりよい治療を提供する。そんな観点からチーム医療は行われています」。「薬剤師は薬のプロ。迅速な対応が必要な患者さんいかに最適な薬を提供できるか?。プレッシャーに感じることも多いですが、誰かのために役立つということに誇りを持って仕事をしています」。日進月歩の速さで開発が進められている薬剤の分野。そのため、最新情報を入手するための勉強会も週一回は必ず行われます。それもひとえに「患者さんによりよい薬物治療を受けてほしい」との思いから。血液を分析し、血液中の薬物濃度を調べ、いま投薬している薬がうまく作用しているかを調べる

のも大切な役目です。「薬が合う、合わない、と皆さんよく言われますが、実際、それぞれの患者さんによって合う薬というのはまちまちなんです。だから副作用が出ていないかなど、入念にチェックしています。副作用とひとことでも言っても、自覚していない副作用がある場合もあります」。そのため事前に、血球が減ると風邪をひきやすくなる、などといった患者さんに分かりやすい情報を伝え、いつもと様子が違ったらすぐにドクターに相談することを薦めます。「薬の場合、食べ物や健康食品との飲み合わせもあります。その人の生活習慣を事細かに聞き、食べ物についてのアドバイスをすることもあります」。

最近インターネットなどで過剰な情報を得ることも多く、心配になって処方された薬を飲まないといったケースも多いそう。「でも治療のための薬を飲まなければ、症状は改善されません。きちんと飲んでいただくために、できるだけ不安を取り除いて、何でも相談してもらええる関係を作っていくのも、私たちの役目」と高畑さん。入院中の患者さんのもとに足を運び、また、外来患者の方にはお薬渡し口で疑問や不安に答えたりもしています。

「大変でないといえは嘘になる。でもやりがいがあるからこそ、続けられるんですよね」。強い腫で語る高畑さんは、今日も薬のスペシャリストとして病院内を飛び回っています。